

お知らせ

從來當場に於て刊行していた「林業試験場報告」を
今般「**林業試験場研究報告**」と改題し引續き刊行する
ことにいたしました

尙番號は林業試験場報告に繼續します

一九四九。七月

林業試験場

東 亞 菌 類 考 (一)

今 關 六 也

Rokuya, IMAZEKI :- Contributions to the Fungous Flora of Eastern Asia. (I).

我國の様に南北に細長く延び切つた國土をもち、その位置は溫帶にありながらアジア大陸に接近した島國であり、親潮・黒潮という寒暖二つの大きな海流の影響をうけている國柄としてそこに産する生物(本研究の對象としては菌類)が、北方、溫帶、南方の3系統3要素からなること、しかも是等の3分子が入り交つて豊かに生育していることは實に驚くべきものがある。

筆者はこの複雑な菌類の植物誌的研究を志し、膨大な菌類群の一部を分擔、主として高等菌の研究に従っている。その集大成への道すがら集めた資料に基き、解き得た菌について逐次報告して菌學界及び農林學界にいささかの貢獻を致したい。

この研究を行うに當つて筆者は内外の多くの方々に種々な御協力、御援助をいただいた。これらの諸氏は主として農林省林業試験場、國立科學博物館、東京大學理學部植物學教室同じく農學部林學科等の各位であり、又各地營林局署の諸氏である。一々その名を記すことは省略するが、筆者は常に感謝の心を以て標本を見、文献を調べ、仕事をつづけている。ここに心からの謝意を表するものである。

1. *Fomitopsis castanea* IMAZEKI, sp. nov.

Syn. *Fomes melanoporus* IMAZEKI [non MONTAGNE], in ASAHINA, Illust. Jap. Crypt., 453, pl. 217, f. 4,5 (1939) - Auct. plur. in Jap. Lit.

Fomitopsis melanopora IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus., 6: 92 (1943)

Fr. sessili, perenni, lignicola; pileo subungulato, ad 30cm lato, 10~15cm crasso, margine crasso, obtuso, superficie anodermi, juvente badio-laticia, minutissime velutinoso, dein subtiliter pseudo-incrustata, fumoso-castanea vel griseo-nigrescenti discolori, profunde sulcata, inter sulcos irregulariter turgida, contextu suberoso, non lignescenti, castaneo-purpureo (Chocolate to Seal Brown of RIDGEWAY), concentrice multizonato; hymenophoro tubuloso, stratoso, concolori, poris minutis, ca 5~6 per mm, circularibus, parietibus tenuibus, integris, griseo-nigricantis vel griseo-castaneis; setis nullis; sporis non inventis.

子實體は多年生、無柄；傘はほど馬蹄形であるが不規則形に崩れ易い、大いさ幅 30cm、厚さ 10~15cm に達するものがあり、かなり大形、傘の縁は一般に厚くて鈍縁、表面は無殻無皮、若い部分は栗褐色で微細な粉毛をおびるが、古くなるに従つて次第に黒褐色になり、表層

部は硬化して偽殻状になる、又巾の廣い凹凸にとんだ畝形の環状隆起帯と顕著な環溝とを具へる、傘の肉は比較的軟かいコルク質で暗紫褐色を呈し、同心的な輪紋をあらわす；子實層托は管孔状、多層、肉と同色、孔壁は薄く、口縁は全邊、孔口は微細で1mmに5~6個、管口面は暗黒色乃至濃い栗褐色を呈する；囊状體は無い；孢子未見。

和名：クロサルノコシカケ（安田）

生態：潤葉樹特にナラ類・クリ等の枯幹、切株、稀に立木に生じ、心材・邊材部の褐色腐朽をおこす。

分布 (Distribution): Japan, endemic. Hokkaidō (野幌國有林 1937-VIII-1, 今關, No. M 205632), (同前, No. M 205707), (定山溪, 1948-IX, 今關) Honsyū (青森縣下北郡湯の股, 1942-IX-14~21, 今關, No. M208979), (仙臺, 1942-IX, 安田篤, No. M 202597), (朽木縣日光, 1931-VIII, 島田五郎, No. M 200001), (埼玉縣武甲山, 1923-XI, 寺田正一, No. M 202598), (同前, 1937-VI-27, 今關, No. M 205618), (長野縣北佐久郡塩野苗圃, 1947-X-9, 今關, No. F 346, Type specimen).

本種は從來、我國で *Fomes melanoporus* MONT. の名で知られていた。一般に山岳地帯に多く、これまでの採集經驗から考へると北方系の種である。然るに *F. melanoporus* MONT. は本來熱帯種で、東西兩熱帯地方に廣く分布しており、その北限は臺灣であることが明らかになった。即ちかゝる熱帯種が北海道でさへ比較的普通に産することに從來とも疑を持っていたが、戦争中筆者は New Guinea 産の菌類を研究する機會を得、その中に本種の典型的な標本を多數見出し、これによつて從來の疑問を解決することが出来た。*Fomes melanoporus* は LLOYD も記した様に“扁平な菌”であり、又“one of the heaviest, hardest species”であり、正に石の様に硬く重い茸である。その他傘の表面の環溝は緻密で、同心的隆起帯は幅狭く、日本のクロサルノコシカケとは全く異なるものである。

なほ從來我々がクロサルノコシカケと呼んでいた菌にはサクラ、ウメなどにつく純背着生の黒ずんだ菌も含まれている。是は前記の何れでもない。然し背着生の菌については筆者はまだ研究していない。又 *Fomes melanoporus* MONT. も新しい分類によれば同じく *Fomitopsis* に屬し、その組合せは *Fomitopsis melanopora* (MONT.) IMAZ. となる譯である。

2. *Cryptoderma Cercidiphyllum* IMAZAKI, sp. nov.

Fr. sessili, perennis; pileo primo applanato dein fere unguolato, 3.5-15 x 3-10 cm lato, 0.7-5 cm crasso, margine tenui, obtuso, infra marginem zona sterili ca 2 mm lata ornata, superficie dense sulcata, sordide griseo-brunnea, alte glabrescenti plus minusve nitidulescenti, radialiter rimosa, sulcis fere evanescentis,

*, **. No. M は國立科學博物館の、No. F は林業試験場の標本番號を示すものである。

fuliginoso-nigrescenti, subcrusta generatim in speciminibus juvenioribus solum distincta, in senilibus tomento superficialibus nigro-durescenti, crustaeforme transformi, contextu tenui, ca 1-2 mm crasso, sordide ferrugineo (Ochraceous Tawny); hymenophoro multistratoso, concoloribus vel pallidioribus, 1-3 mm longis, poris minutis, regulariter orbicularis, acie obtusa, 4-5 ad 1 mm, dissepimentis griseo-avellaneis, acie obtusa, integris; hyphis in contextu et tramis $2.5-3\mu$ crassis; setis ventricosio-fusiformibus, copiosis, $21-30 \times 7-11\mu$ crassis; sporis hyalinis, subglobosis, $5-6.5 \times 4-5\mu$, laevibus.

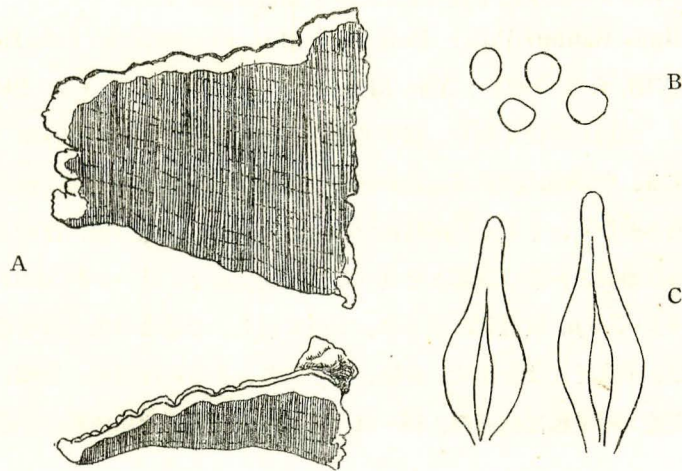


Fig. 1. *Cryptoderma Cercidiphyllum* IMAZ. エゾヒツメタケ
A, vertical sections of old and young pilei. (老若2個の子實體の断面)
B, spores. (孢子) C, setae. (剛毛體)

子實體は多年生、無柄；傘ははじめ扁平であるが年を経たものは殆んど蹄形になる、大いさ $3.5-6-15\text{ cm} \times 3-4-10\text{ cm}$ ，厚さ $0.7-3-5\text{ cm}$ ，傘の縁は薄いが鈍縁、下縁に沿うて幅 2 mm 内外の不実帯がある、傘の表面は密な著しい同心状の渦畝があり稍粗糙、暗灰褐色をおびるが、古くなると次第に凹凸はとれ浅い環溝と放射状の細かい龜裂をあらわし、色は黒ずみ鈍い光澤をおびるに至る、肉は薄く厚さ $1-2\text{ mm}$ ，くすんだ褐色、若い子實體では薄い毛被層の下に黒色の薄い下殻 (subcrust) が認められるが、古くなると毛被層は脱落又は炭化して下殻と共に皮殻化してくる、子實體層托は管孔状、多層、肉とほぼ同色、各層は厚さ $1-3\text{ mm}$ ，孔口は微細、 1 mm に $4-5$ 個、整圓形、口縁はやや厚くて全邊、僅かに灰白色をおびる、菌糸は傘の肉・實質共に徑 $2.5-3\mu$ ；剛毛體は長首の徳利形、 $21-30 \times 7-11\mu$ ；孢子は無色、類球形、平滑、大いさ $5-6.5 \times 4-5\mu$ 。

和名：エゾヒツメタケ (新稱)

生態：北海道に於てカツラの生立木に群生、腐朽型は不明。

分布(Distribution): Japan, endemic. Hokkaidō (天塩郡士別村, 1941-VII-23, 今關, No. M 212095, Type Specimen). 日本特産。

本菌については更に資料を得たいと、北海道その他各地でカツラを見るたびに注意しているが、未だ第二回目の採集を果していない。昨1948年9月、札幌市内のカツラの街路樹に一種の褐色の硬質菌があることを北大の龜井専次博士から聞き、採集したが餘りに不完全であつたため同定することが出来なかつた。大方の御協力を仰ぎたい。

本種は同属のスグリタケ *Cryptoderma Ribis* (Fr.) IMAZ. に似るが、蹄形となること、古い傘の表面にキコブタケ *Phellinus igniarius* の様な龜裂を生ずること、剛毛體があることなどで異なる。キコブタケとは下殻があることで系統を異にする。

3. *Phellinus Baumii* PILAT, Bull. Soc. Myc. Fr., 48: 25, Tab. II, f. 2, Tab. V, f. 3, Tab. VIII, f. 3 (1933); Ann. Myc., 38: 79, Tab. IV, f. 1-2 (1940)

子實體は多年生、無柄；傘は半圓形、扁平乃至やや蹄形、大いさ 5×10 cm, 厚さ基部に近く 4.5 cm に達する、傘の縁は鈍縁或は截り斷つた形をなし下縁は不實帯で縁取られる、傘の表面ははじめ微毛を被わり、くすんだ肉桂色であるが次第に暗色化し後には殆んど灰黒色となる、又著しい縦横の龜裂と多數の環溝とを具へるが殻皮は發達しない、傘の肉は黄褐色、木質、菌糸は黄褐色で徑 $3 \sim 3.5 \mu$, 放射狀に走るが、傘面に斜上した菌糸の先端は暗色に硬化して炭質の偽殻をつくる；子實體托は管孔狀、多層、肉と同色、孔口には圓形、微細、1 mm に 10 個、口縁は薄く全邊；剛毛體は紡錘形、 $15 \sim 21 \times 5 \sim 6.5 \mu$ ；胞子は類球形、平滑、淡黄褐色、 $3 \sim 3.5 \times 3 \mu$ 。

和名： エゾキコブタケ (新稱)

生態： ハシドイの生立木その他の潤葉樹(?)に生じ白腐れを起す。

分布(Distribution): Siberia (Wladiwostok); N. China; Manchuria (三江省湯原縣帶嶺, 1940 X-1, 溫水竹則); Japan, Hokkaidō (東大山部演習林, ハシドイ上, 1947-II, 千葉修, 青島清雄, No. F 381); (苫小牧, 山上事業區, ハシドイ上, 1939-VII-9, 龜井専次)。

本種は 1928 年 ZILLING が Wladiwostok 附近で *Syringa* sp. 上で採集した菌に基いて、PILAT が命名した東亞特産の菌である。その後 PILAT は E. LICENT 氏採集の北支産菌類中に多數の標本を發見し、その分布がかなり廣いことが判つた。筆者は前記の如く溫水氏が滿洲で得たものに是を見出し、更に千葉、青島兩氏が Type と同属の *Syringa amurensis* RUPR. var. *japonica* FR. et SAV. ハシドイに寄生する美事な菌を採集、是によつてその正しい同定を下すことが出来た。

一見キコブタケ *Phellinus igniarius* に酷似する同属の菌であるが、胞子が着色すること、肉の色がキコブタケが濃い茶褐色であるに比し本種では黄褐色であることが最も顯著な違いである。然し腐朽型も似て居り同属近縁の菌であることは云うまでもない。

4. *Piptoporus quercinus* (SCHRADER ex FR.) PILAT, ...? — BONDARZEW et SINGER, Ann. Myc., 39: 53 (1941)

Syn. *Polyporus quercinus*, FR. Epicr. 401 (1838) — HUSSEY, Illust. Brit. Myc., 1: Pl. 52 (1847) — MASSEE, Brit. Fung. Fl., 1: 245 (1892) — LLOYD, Synop. Polyp. Apus, 288 (1915) — REA, Brit. Basid., 581 (1928).

Ungulina quercina PATOUILLARD, Ess. Tax., 103 (1900) — BOURDOT et GALZIN, Hym. Fr., 606 (1927).

Placodes quercinus QUELET, Enchir., 170 (1886).

Caloporus fuscopellis QUELET, Ass. fr., Pl. III (1891).

子實體は笠形乃至扇形をなし、基部は太短かい柄状をなす、大いさ 10 cm (幅) × 7 cm (長さ)、厚さ基部の近くで 2.0 cm 内外、傘の周縁は薄く傘の断面は楔形をなす、表面はなめし皮狀の觸感があり、薄いが明瞭な上皮を被むる、上皮は生時黄色だが後黄褐色乃至淡茶褐色となる、傘の肉は白〜材木色、海綿狀コルク質で極めて輕軟、厚さ 2 cm、菌糸は徑 6.5~8 μ , 厚膜で不規則に屈曲する; 子實體托は管孔狀、管孔は極めて短かく 1~2 mm, 生時白いが接觸すれば赤變し乾けば殆んど暗黒色に變色、又傘の肉と剝がれ易いため乾燥品では部分的に脱落している、孔口は微細; 胞子は長橢圓形、無色、大いさ 6.5~8 × 2.5 μ .

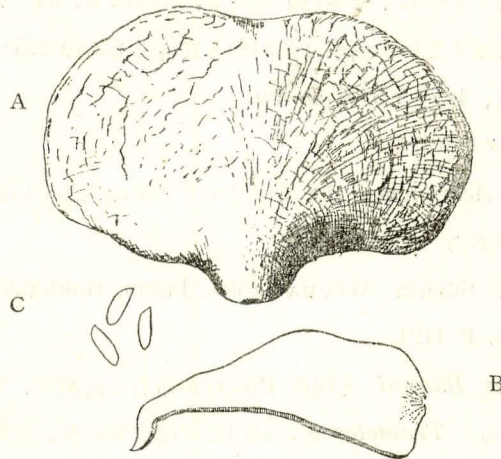


Fig. 2. *Piptoporus quercinus* (FR.) PILAT. コカンバタケ.

A, surface view (傘の上面) B, vertical section (傘の断面)

C, spores (胞子) (Figures are drawn from dried specimens)

和名: コカンバタケ (新稱)

生態: 歐洲ではカン類に生ずるが極めて稀に發生、日本産は寄主不明。

分布 (Distribution): Europe; Japan, Honsyū (静岡縣田方郡猫越國有林、1947-VI, 寺本敏雄 No. F 1120).

本種はこれまで歐洲にだけ知られ、しかも FRIES の命名以後 100 餘年を経た今日までに數えるに足る僅かの採集記録しかない程の珍菌である。LLOYD によると“本種は歐洲に於て oak に生ずる奇菌で各地の博物館でもめつたに標本は見られない。自分はある年 Fontainebleau (Paris の南方) で幸に一標本を見た。自分が知る限りでは HUSSEY 夫人が英國における唯一の採集者である(筆者註: HUSSEY 夫人は 1847 年に Illustrations of British Mycology なる豪華な原色菌類圖譜を著し本菌を圖示している)。女史の標本は今日もなお Kew 植物園に保存されているが是が Kew にある唯一の標本である。又 Berlin には PLOWRIGHT の採集品があり、以上の 3 點が自分の見た全部である。”と。

かゝる世界的な珍菌が天城山の附近で採集されたことは特筆すべき値打がある。菌類におけるこの様な超不連続的な分布は特に我國に於ては他にも幾つかの例があるが、盡きぬ興味を抱かしめるものであり、採集者寺本敏雄氏に謝意を表するものである。

5. *Trametes Ljubarski* PILAT, Bull. Soc. Myc. Fr., 52: 311, f. 10, Tab. VIII, f. 3, (1937).

子實體は一年生、無柄; 傘は半圓形、饅頭形、鈍縁、大いさ 8×3.5 cm, 厚さ 2.5 cm に達する、全體殆ど白色、傘の表面は無殻無皮、粉毛をおびてなめし皮狀の觸感がある、環紋も溝もない、肉は類白色、厚肉でコルク質; 子實體托は管孔狀、長さ 5 mm. 周縁に行くに従い次第に短くなる、色は肉より少しく材木色をおびる、孔口は小、圓~類圓形、1 mm に 3~4 個、口縁は全邊、孔壁は厚くない、菌糸は菌の傘と實質ともに徑 $2.5 \sim 3 \mu$. 不規則にもつれる; 胞子は類球形、無色、 $4.5 \sim 5.5 \times 3.5 \sim 4 \mu$.

和名: エゾシロアミタケ (新稱)

生態: シベリアでは *Acer mono*, 日本ではノリウツギに生じていた。腐朽は日本のものによると心材部の白腐れである。

分布: (Distribution) Siberia (Wladiwostok); Japan, Hokkaido (空知郡山部東大演習林, 1947-II, 千葉修 No. F 1121).

本種も前記 *Phellinus Baumii* と同様 PILAT が命名した菌で、共に Type Locality は Wladiwostok 附近である。*Trametes* 屬には白色の菌が多いが、近似種の一つと考えられるものに *T. inodora* FR. があるが、同種については新時代的研究がないので正確な判断が下し難い。

6. シュタケ *Trametes cinnabarina* JACQ. ex FR. とヒイロタケ *T. sanguinea* (L. ex FR.) IMAZ.

この 2 種の朱色の菌は從來我國で非常に混同されていた。即ち異種説をとらへた澤田兼告(臺灣博物學會報 25: 42-46, 1935)と今關(日本隱花植物圖鑑, 463, 1939)を除いては同種

とし或は少くとも日本のものはヒイロタケ (*T. sanguinea*) 一種であるとし、むしろ同種説が一般に通用している。この様な疑は日本とアメリカで時として問題となるが歐洲では見られない。それは *T. cinnabarina* が歐洲のオーストラリアを Type Locality とし、歐、アジアの北部から北米の北部にかけて分布する云はゞ北方系の菌であるのに對して、*T. sanguinea* は南米の Surinam 地方を Type Locality とする熱帯種であり、その分布は東西の熱帯地方に擴がり、北米では合衆國の南部諸州、東亞では中國、日本等にまで北上、然し歐洲には記録がないことから考へて、歐洲菌學界では問題の對象とならなかつたものと思はれる。

この様に兩種は分布の中心を全く異にする菌であるが、互に極めて似かよつた色を持ち、その他の點でも類似性が高いので、兩者を共に生ずる地方では屢々その區別に困難を感じるのであろう。たゞ是等の困難や疑問が起つたとしても、兩種の正體そのものについて不十分な認識に基いて議論が行はれ又行はれたことは遺憾である。

Trametes cinnabarina の典型體は饅頭を半切りにした様な形で傘は厚く、又孔は大きく誰の目にも一見 *Trametes* の特徴を與へる。この典型體は歐洲の他では少くもアメリカ合衆國北部、カナダ、滿洲、北部朝鮮等に産する (標本に基いて記す)。是に對して *T. sanguinea* は長く *Pobystictus* と呼ばれた様に薄い革質に近い菌であり、孔は殆ど超肉眼的に微細なもの、それ故に PATOUILLARD は *Microporus* 屬に配した位である。従つて是等二つの基本形を比較するならば何人もその區別に困難は感じない筈である。

然るに北海道以南の日本産の *T. cinnabarina* は兩型の中間をいくつかの感をうけ特に子實體の厚さは純北方型の半ば或は半ば以下のものが多く、孔口は大きい孔壁は比較的薄く、色も特に傘の下面は緋色に近い朱色をおび必ずしも典型的なものではない。然し日本型と典型的の北方型とは管孔の大きさに於て全く同様であり、何れも 1 mm に對して 2~4 個の割合で、*T. sanguinea* の 1 mm に對する 6~8 個にくらべ 2~3 倍の大きさにある。澤田氏は管孔の大きさの他に *T. cinnabarina* では管孔は深さ 4~9 mm に對し *T. sanguinea* では 1~2 mm とし、その他傘の表面、肉、下面の色及び濕つた傘を紙の上に摩つた時の色が異なるとして是等を比較表示している。管孔の深さ、傘の厚さは *T. sanguinea* が日本型の *T. sanguinea* にくらべても確實に淺く且薄く概して後者の $\frac{1}{2}$ 位の傾向があり、兩者が別種であることを裏書きするが、その差は數字的に示す程のものではない。筆者としてはむしろ兩種による腐朽材の表面に伸び出てくる菌糸の色が *T. cinnabarina* では明るい朱色であるのに對して、*T. sanguinea* では濃い緋色を呈することに注目する。前種の菌糸があらわす朱色は恰も *T. cinnabarina* の典型的子實體の色に符合し、兩者間の近い關連性を示すものと考えられるからである。筆者はまた日本に特殊の Local Form があることに興味を持ち、大陸型、日本型及び *T. sanguinea* の三系の間に遺傳學的研究を試みるのも興味ある問題ではないかと考へている。

なお筆者が観察した資料は次の通りである。是によつても理解される様に兩種の分布する範圍はシユタケは北方もしくは山岳地方が中心であり、ヒイロタケは南方におびたゞしく漸次平地帯を北上するものと見なしてよい。然しシユタケが臺灣の臺北附近で、又ヒイロタケが朝鮮の北部でも採集されている様に兩種とも適應性は強いものである。

Trametes cinnabarina.

Japanese specimens: Hokkaidō (釧路). Honsyū (岩手、福島會津、茨城、石川白山、長野八ヶ岳、静岡富士山、山梨富士山と成島峠).

Foreign specimens: Manchuria (2 coll., in Herb. Tokyo Sci. Mus.). Korea (1 coll., in Herb. T. S. M.). Formosa (1 coll., in Herb. T. S. M.). U. S. A. (2 Specim. ex Herb. J. R. WEIR). Canada (1 specim. ex Herb. Univ. Toronto).

T. sanguinea.

Japanese specimens: Hokkaidō (後志俱知安) Honsyū (宮城、福島、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、静岡、愛知、岐阜、富山、三重、大阪、兵庫、鳥取、岡山、山口). Sikoku (愛媛、徳島、高知). Kyūsyū (大分、宮崎、鹿児島、屋久島、奄美大島).

Foreign specimens: Korea (2 coll., in Herb. T. S. M.) Formosa (10 coll., in Herb. T. S. M.) Biu Kiu Is. (3 coll., in Herb. T. S. M.) Micronesia (4 coll., in Herb. T. S. M.) New Guinea (8 coll., in Herb. T. S. M.) India (1 coll., ex Herb. S. R. Bose).

圖版説明

Explanation of Plate

Fig. 1. *Cryptoderma Cercidiphyllum* IMAZ., the type specimen. (ca. × 1) エゾヒヅメタケの基準標本.

Fig. 2. *Trametes Ljubarski* PILAT (ca. × 1) エゾシロアミタケ.

Fig. 3. *Phellinus Baumii* PILAT (ca. × 1) エゾキコブタケ.

Fig. 4. *Fomitopsis castanea* IMAZEKI (No. 202597 in Herb. Tokyo Sci. Mus.). (ca. × 1) クロサルノコシカケ.

Fig. 5. *Trametes sanguinea* (Fr.) IMAZ., the pore surface. (ca. × 1) ヒイロタケの管孔面.

Fig. 6. *Trametes cinnabarina*. The pore surface of the Japanese form. (ca. × 1) 日本型シユタケの管孔面.

Fig. 7. *Trametes cinnabarina*. The vertical section view of Canadian specimen. (ca. × 1). カナダ産シユタケの断面.

Contributions to the Fungous Flora of
Eastern Asia. I. (*Resume*).

By

Rokuya IMAZEKI

1. *Fomitopsis castanea* IMAZEKI

This species has long been misreferred to *Fomes melanoporus* MONT. by the Japanese mycologists. The writer, however, found this mistake when he had an opportunity to study the typical tropical specimens of *F. melanoporus* collected in New Guinea. *Fomes melanoporus* is a tropical species and is distributed throughout the tropical region. The northern limits of this fungus in the Orient is Formosa, and it has never been collected from Japan.

The species is characterized, as LLOYD noted, by the very hard and heavy consistency of the context, almost applanate form of pileus, and densely developed, remarkable concentric ridges on the pileus surface. In this Japanese purplish black *Fomitopsis*, the pileus is almost ungulate in form, the concentric ridges are very broad and few, and the context is soft corky and light in weight.

The type specimen was collected by the writer at Konuma-mura, Kitasakugun in Nagano pref., on October 9, 1947. It grew on the living trunk of chestnut tree and is preserved in the Herbarium of Forest Experiment Station (Herb. No. F 346).

2. *Cryptoderma Cercidiphyllum* IMAZEKI

The type specimen was collected by the writer at Sibetumura, Tesio-gun in Hokkaido, on July 23, 1941, which grew on the living trunk of *Cercidiphyllum japonicum* S. et Z.. It is preserved in the Herbarium of Tokyo Science Museum (Herb. No. 212095). In general appearances, it resembles somewhat to *Phellinus igniarius* but differs from it, by having a distinct subcrust under the thin superficial tomentum. It is separable from *C. Ribis* by the ungulate form, rimose surface of the pileus, and the presence of setae.

3. *Phellinus Baumii* PILAT

The plant is found in Hokkaido, Japan, where it grows on living stem of *Syringa amurensis* RUPR. var. *japonica* FR. et SAV., the host belonging to the same genus with the tree on which the type collection was made. The writer has a specimen from Manchuria collected by Mr. NUKUMIZU-T.. It differs from *Phellinus igniarius* by the color of context and spores.

4. *Piptoporus quercinus* (FR.) PILAT

It is a very interest and noticeable fact that this rare pore fungus was found in Japan. Mr. TERAMOTO got several fruitbodies growing on some stump in woods near Mt. Amagi in Sizuoka Prefecture.

5. *Trametes Ljubarski* PILAT

This is the second record of this species. The present material was collected

by Mr. TIBA-O. at Yamabe, Sorati-gun in Hokkaido, on February, 1947. It grew on living trunk of *Hydrangea paniculata* SIEB., causing a white rot of heart wood.

6. *Trametes cinnabarina* JACQ. ex FR. and *T. sanguinea* (L. ex FR.) IMAZ.

The fruitbodies of Japanese *Trametes cinnabarina* are rather thin and never grow more than one cm thick. They are somewhat different from the typical ones found in Europe and northern part of North America, which are much thicker and take even a triquetrous form. An another red pore fungus, *Trametes sanguinea* is more common species in Japan. It is a very thin and almost coriaceous fungus.

These two similar species are generally confused, and even the opinion that they may be the same prevails in Japan. It is needless to say they are different, but the Japanese form of *T. cinnabarina* should be separated from *T. sanguinea* as follows:

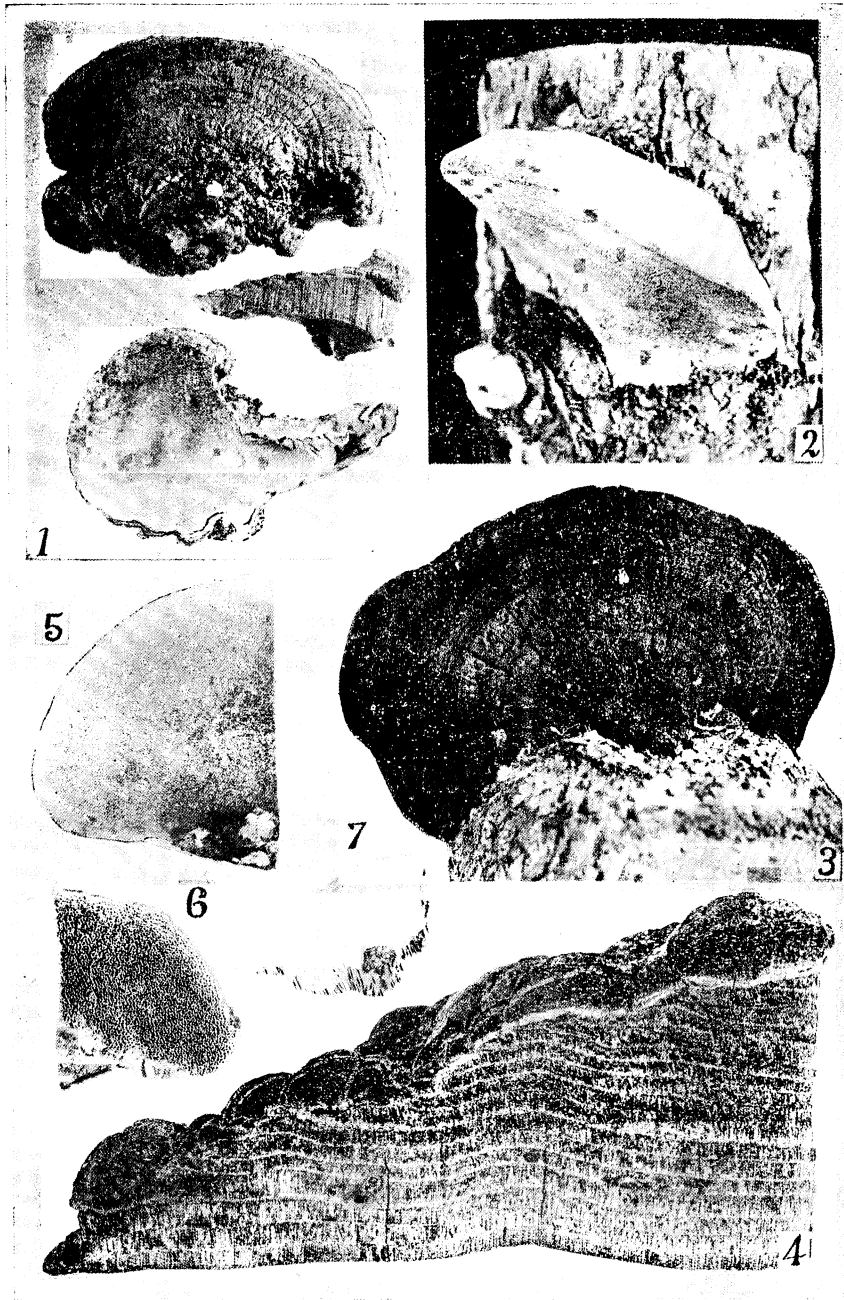
Trametes cinnabarina of Japanese form. Pileus is applanate, 5-7 mm thick, but not more than 1 cm. Pores 2-3 mm or more long, 2-4 per mm.. Color of hyphal mat grown out on the surface of rotten wood is bright orange red (Flame Scarlet of RIDGEWAY). It is collected more frequently in northern part and mountain region in Japan.

Trametes sanguinea. Pileus is thin and 3-4 mm thick. Pores are 0.3-1.5 mm long and 6-8 per mm.. Color of hyphal mat is deep scarlet (Scarlet Red of RIDGEWAY). It is distributed in southern part of Japan and in the low land region northwards.

Laboratory of Forest Mycology,

Government Forest Experiment Station,

Meguro, Tokyo, Japan.



今關六也：東亞菌類考 (一)
(R. IMAZEKI : Contributions to the
Fungous Flora of Eastern Asia. I.)